

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林整備費

事業名 ぎふ林業新規担い手支援事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林整備課 担い手企画係 電話番号:058-272-1111(内 3197)

E-mail: c11515@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 19,223 千円 (前年度予算額: 16,520 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	16,520	0	0	0	0	0	16,520	0	0
要求額	19,223	0	0	0	0	0	19,223	0	0
決定額	16,217	0	0	0	0	0	0	0	16,217

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

第3期岐阜県森林づくり基本計画において、森林技術者数を令和3年度に1,255人に増加することを目標としている。

これまで森林技術者は減少傾向にあったが、平成30年度940人、令和元年度936人と、近年、下げ止まり傾向にある。担い手の確保は喫緊の課題であり、森林技術者の確保と育成のために、引き続き、林業労働力の確保の促進に関する法律に基づき設置された「岐阜県林業労働力確保支援センター(森のジョブステーションぎふ)」が行う就業相談から技術習得、定着までの事業が円滑に実施できるように支援する。

(2) 事業内容

森のジョブステーションぎふが実施する就業相談、新規雇用者の技術習得のための研修等の事業を円滑に実施するために、運営費の補助を行う。

職員人件費、旅費、需用費、役務費、使用料等について必要な経費の補助を行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

補助率 10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	19,223	岐阜県林業労働力確保支援センターへの補助金
合計	19,223	

決定額の考え方

補助金額の算出方法を精査し、所要額を計上します。
また、財源を一般財源とします。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第3期岐阜県森林づくり基本計画において平成33年度の森林技術者数を1,255人としている。

(2) 国・他県の状況

国において「緑の雇用」現場技能者育成推進事業を実施。

(3) 後年度の財政負担

後年度においても継続的に補助

(4) 事業主体及びその妥当性

岐阜県林業労働力確保支援センター（公益社団法人岐阜県森林公社）
林業労働力確保支援センターは「林業労働力の確保に関する法律」において、林業労働力の確保を推進するため、各県に1つ設置が位置づけられており、事業主体として適当。

県単独補助金事業評価調書

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

補助事業名	ぎふ林業新規担い手支援事業費補助金
補助事業者（団体）	林業労働力確保支援センター（（公社）岐阜県森林公社） （理由）林業労働力の確保に関する法律において、林業労働力の確保を推進するため、設置が位置づけられており、事業主体として適当。
補助事業の概要	（目的）就業者の確保と育成、事業体の経営基盤強化 （内容）運営費補助金
補助率・補助単価等	定額・ 定率 ・その他（例：人件費相当額） （内容）10/10 （理由）①林業の担い手育成を推進するため。
補助効果	新規就業者の確保と育成、事業体の経営基盤強化
終期の設定	終期 令和3年度 （理由）継続的に支援していくことが必要

（事業目標）

<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内の森林技術者数を令和3年度に1,255人まで増やします。
--

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H30年度末)	目標 (R元年度末)	目標 (終期)
① 森林技術者数	940	1,247	1,255
②			

	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度 (要求)
補助金交付実績	0千円	0千円	10,000千円	(予算額) 16,520千円	(要求額) 19,223千円
指標①目標	1,141	1,238	1,247	1,251	1,255
指標①実績	932	940	936	(推計値)	(推計値)
指標①達成率	82%	76%	75%	(推計値) %	(推計値) %
指標②目標					
指標②実績				(推計値)	(推計値)
指標②達成率				(推計値) %	(推計値) %

(前年度の成果)

・新規就業者に対する助成や起業者に対する支援、また雇用の安定化のための支援を行うことができ、森林技術者については、これまでの減少傾向から微増に転じた。

(今後の課題)

・森林技術者数の安定的な雇用を図り、新規就業者数を増やすため、今後も継続的な支援が必要である。

(事業の評価)

・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か）

○：必要性が高い △：必要性が低い

(評価) ・林業担い手を確保するため、就業前から就業後まで一貫した支援が必要。
○

・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか）

○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている

△：まだ期待どおりの成果が得られていない

(評価) ・新規就業者や林業事業体に対する支援対策を実施したことにより、森林技術者数の減少に歯止めがかかりつつある。
○

・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか）

○：効率化は図られている △：向上の余地がある

(評価) ・森のジョブステーションぎふは、林業担い手の確保から育成、労働環境の整備を行う県内唯一の機関であり、連携し効率的に実施している。
○

(事業の見直し検討)

・森林技術者の育成については、「100年の森林づくり計画人材育成・技術開発プロジェクト」として重点的に実施する。

(終期到来時の翌年度以降の事業方針)

継続・削減・統合・廃止

(理由)・森林づくり基本計画における森林技術者数を確保していくため、継続して事業を実施していくことが必要。